

自己にまつわる避けられない事象が周りの人、家庭、経営にまで影響することがあります。目前の苦難を乗り越えた時、経営者だけでなく、社員をも成長させていく、見えないつながりを考えてみましょう。

経営の不安定、業績の悪化、新商品開発の失敗等、経営者が直面する困難な問題は多岐にわたります。こうした困難の課題は、緊急度の高いものや中長期的に取り組みなければならぬものなど様々でしょう。

困難なことから目を背けず、一つひとつ取り組む先に、その解決の糸口が見えてくるのではないのでしょうか。

全国各地の催事・物産展を開催・運営する催事企画会社を営むN氏。企画を提案し運営面に至るまで、N氏が中心になって、現場を取り仕切ってきました。

事業拡大し、フランチャイズ展開を始めるために、新たな社員を雇うものの、N氏が中心で現場を仕切っていくという体制は変わりませんでした。

それでも店舗数が広がりを見せると、N氏自身が現場を離れて重要な打ち合わせに向くことが多くなり、それまでN氏だけが行なっていた店舗運営や各支店の店長への情報伝達、連絡も社員に託すことになりました。

N氏はそれまで、各店舗との連絡は自分に集約させていたので、社員に任せることへの不安を抱えていました。とはいえ、一週間会社を空けなければならなくなり、(社員に任せきろう)と腹をくくり、これまで培ってきたノ

8月のテーマ

困ったことから  
開ける道



## 社員に任せきる心が 困難な状況を払拭させる

ウハウを社員に伝えました。

一週間後、N氏が久々に会社に出社すると、社員は疲れ切った様子でしたが、その反面たくましい顔つきをしていたのです。また、N氏が伝えた業務のノウハウを自分のものにしようと努めた跡がみえ、立派にやり遂げていたのです。この一週間の中で、様々な困難にも直面したのですが、打たれ強い精神を身につけた社員の姿にN氏の不安は、払拭されたのでした。

それまでのN氏は、社員に仕事を任せきれない点がありました。留守中も、幾度となく不安が頭をよぎりました。しかし社員に(任せきればいい)と腹をくくり、結果として全幅の信頼を寄せられる社員へと変貌した姿を目の当たりにして、N氏はそれまでの自分中心で業務を仕切っていたことを反省したのでした。

一時の苦しみ、しばしの痛み、それは更に大きく、いよいよ健康に進み高まるためのしばしのくらがりである。これが去ったとき、夜明けのような光明の舞台が開ける。☺万人幸福の菜☺

苦難やトラブルは様々な姿、形で生じてくるものです。そうした時には、目前の出来ることを精一杯やり遂げると共に、誰かに任せきることも重要です。困難から得た気づきが、自らの糧となり、それを乗り越えていくことよって、次への成長、躍進へと変わるのです。

どう転ぶかわからない困難が目前に起きてても、素直に受け止めて、乗り越える先に道が開けるのです。